

第4回信夫山の資源を活かしたまちづくり検討委員会 議事録

1 日 時 令和2年2月25日(火) 13:30~15:00

2 場 所 市民会館第2ホール

3 出席者 委員

西内 みなみ 委員長、奥本 英樹 副委員長、薄 真幸 委員、菅野 真記子 委員
加藤 勝夫 委員、谷 美和 委員、若林 初美 委員、本田 政博 委員
奈良輪 和子 委員、志賀 裕悦 委員、春山 哲郎 委員、村川 友彦 委員
鈴木 深雪 委員

オブザーバー

小浪 尊宏(代理:下田一朗)、外川 泰司

4 内 容

(1) 開会

(2) 議事

①第3回委員会の振り返り

②保全に関する基本的方針

③活用に関する基本的方針

(3) その他

(4) 閉会

5 概 要 議事内容について事務局説明後、質疑応答、意見交換

6 委員の主な発言

(委員)

第1回委員会で確認すべきだった内容だが、福島市は資料2、3、4をマスタープランのような位置付けで考えているのか、ある程度整備も考えた案なのか、はっきりさせないといけない。マスタープランならよいが、実施計画であれば美辞麗句ではなく実施可能な計画とする必要がある。

(事務局)

できるのであれば、実施計画まで作るべきだと思っていた。ただ、今回お示しした基本的方針はマスタープランと捉えてほしい。そして、文章だけでは分かりにくいので、イメージとして方針図を作成し、添付した。資料2に図面が付いて基本的方針と捉えていただきたい。

(委員)

「むすびに」に『「信夫山全体をミュージアム」と捉え』と記載があり、このようなことを踏まえて

今後の施策を考えていくということだと思う。ただ、具体的な今後の計画があるのか。また、「捉え」ということだが、もう少し踏み込んで『「信夫山まるごとミュージアム」とする』という考えがあるのかを聞きたい。

(事務局)

4回の委員会で皆様のご意見を伺い、我々も再認識させられる部もあった。そのようなことから、「信夫山全体をミュージアム」と捉え、今後、各部署での動きもあるので調整しながら信夫山のまちづくりをしていきたいと考えている。

(委員)

今の事務局の回答はまちづくりという観点からの考え方なのでよく分かる。今後の課題だと思うが、私の願いとしては「信夫山まるごとミュージアム」という名前で、『「まるごとミュージアム」とする』となっていけばと思う。まちづくり担当の部署でやるのか別の部署でやるのかということもあると思うが、是非、今後踏み込んで取り組んでほしい。

もうひとつ、先日も暁まioriの際に福男福女競走というイベントが開催され、参加者も多く盛り上がったようだが、どのような理由で発案されたのか、その根底にあるのは何かと以前から考えていた。もともと六供の方々は、正月に月山・羽山・熊野山の三山を暁(夜が明ける)まで駆け巡るということを行っていた。そういったものが土台にあるから、あの行事が盛り上がると理解したいと思っている。

(委員長)

「信夫山全体をミュージアム」というのは、この委員会で発言のあった「信夫山まるごとミュージアム」から出てきた言葉だと思うので、委員会で「信夫山まるごとミュージアム」という言葉を商標登録するなり、委員会発のメッセージとして承認いただけるなら、この委員会で修正すればよい。

(委員)

本日の資料は、総論的にはよいが、各論に落としていくと問題がたくさんあると思う。

まず、汚染土壌搬出のために山を削って道路を作っているが、訴訟を起こしてまで中止させると聞いている。気持ちは分かるが、第1仮置場の汚染土壌は令和4年3月までに中間貯蔵施設まで搬出することなので、1日も早く道路を拡幅して搬出してもらいたいと、私たち清水地区町内会連合会、御山地区町内会連合会は考えており、ご承知をお願いしたい。

そして、資料4の街なかとの連携の部分も、よく分かる。信夫山の年間のイベントについても慎重かつ盛大にやっていくにはどうすればよいか、ひとりひとり考える必要がある。

先般の暁まioriでは、皆様のご支援とご協力のおかげでかつてないほど協賛金が集まった。特に今年は新潟県、宮城県北部、山形県からたくさんの参拝者がいらっしゃった。理由を考えると、ひとりひとりからの情報が伝わったからだと思う。特に古関裕而効果もあるのかもしれないが、PRが行き届いてきたことと、JRのPRがうまくいっているという2つのポイントがあったと考えている。

これから、この方針をまとめて市長に上げると思うが、行政で今後の検討をしてもらえれば、地元としても協力していきたい。また、まとめたものを共有しながら今後どうするかを考え、間もなく観光シーズンを迎える花見山と、信夫山とをリンクさせて皆様に来てもらいたいと思う。

(委員)

資料2の17ページ21行目の「適正な法規制や指定」について、前回は「適正な法規制や指定の推進」と記載されていたので、「の推進」が抜けているのではないか。

(事務局)

抜けていたので加筆する。

(委員)

活かす資源とは何か、信夫山の資源は何か、という視点で4回の委員会に参加してきた。今回の報告は、方向付けはよく大掴みな点が煮詰まってきたと感じる。ただし、自然、環境、動植物、地理に関する詳しい議論はまだ不十分ではないかと思う。専門委員会を立ち上げ、信夫山に詳しい人や専門分野の方の意見を参考に、実際に豊かなものにしてほしいと市に要望する。これは、実行に移してもらいたいと強く思っている。

先ほど、汚染土搬出のための道路拡幅への反対に関する話があったが、実際、搬入は十分に安全を確保して行われた。早いかからよいわけではなく、よく調べてほしい。御山信夫山線沿いの保安林が伐採され、中間には通称赤玉石と言われる大きな石が残っている。保安林の樹木が根を張って赤玉石を抱え、東日本大震災のときもびくともせず、壊れたことはなかった。それを壊すことになる。慎重に時間をかけてでも安心安全に搬出してもらいたい。

これ以上、道路や駐車場、コンクリート舗装などの人工物はできるだけ避けてほしい。現状を破壊してまでも信夫山を活かすというのはおかしいと思う。

1月29日に雨が非常に強く降った際に信夫山へ行ったところ、道路一面に雨水が流れていた。保安林は壊され側溝はコンクリートの蓋を吹き飛ばす勢いで流れていた。それが護国神社の方にも流れ込んでいた。このような状況を見ると、信夫山も土砂災害が起きかねないと感じる。

現実には、ガイドセンターに向かう途中の交差点の所では既に土砂災害が起きている。個人的な推測だが、現場より上の旧道は御神坂広場周辺がコンクリートで舗装され、側溝がないため水が旧道を通ることによって土砂災害を起こしたのではないか。

現在道路拡幅をしている箇所は両側に側溝を入れる計画で工事を行っているが、それでは信夫山に降った雨が染み込むのではなく急流となって流れることになる。そうすると祓川や阿武隈川に急激に水が流れ、近年は地球温暖化で豪雨災害が度々起きているが、これにも繋がるのではないか。阿武隈川の水が急激に増えると市内の浸水家屋が増えたり梁川にも影響があったりと、丸森町でのひどい災害のようなことも起きかねない。舗装面をできるだけ少なくすることを市で考えてもらい、信夫山が本当の「ミュージアム」になるように進められたらいい。

各分野から知恵を絞ってもらい、信夫山の良さが市民の共有物になり、そして、次世代の子ども達が大人になっても信夫山は素晴らしいと伝えられたらよい。この委員会はそのような役割だと思う。

(委員長)

災害は本市にとっても大きな社会問題なので、それをどう解決するか、信夫山を通して考えさせられていると思う。専門委員会を必ず設置し、具体的に対策を検討できるよう要望したい。

(委員)

土砂災害の件で、ハザードマップを見ると第四中学校の裏側がかなりの広範囲で土砂災害特別警戒区域に指定されている。こども達の生活している場で、これまでに災害が起きなかったから今後も絶対に起きないということはありません状況だと思うので、災害の危険性があるような開発などが、しっかり検討してもらいたい。

(委員)

全体としてはバランス良くまとめられている印象である。ただ、信夫山に行くための交通アクセスについての記載がなかなか探せなかった。

例えば、今後メロディバスが走るなどの公共交通の話や、前の委員会で駐車場の問題に関して「麓にある程度のキャパシティのある駐車場があったらよいのではないか」などの意見があったかと思うので、これから保全・活用していくうえでのアクセスの考え方もある程度示してほしい。

(委員)

「信夫山を知ろう会」などを定期的に行政でやらしてもらえれば参加者も増えると思う。

資料4で「連携強化」とあるのは商店街が対象かと思うが、神社などを巡るスタンプラリーを実施し、協賛店の割引などをやったらどうか。また、信夫山にたくさん人が訪れるとしたら、お土産などの商品開発や、イベントでの農産物の販売をしてイベントを活発にしてみたい。

農家の方からの意見で、畑の整備をしなくてはいけないというのは分かるが、どうしてもできない所は市で買取りして整備を進めてもらえないかとも言われた。

(委員)

写真美術館の展示物は秋山先生の花見山の写真だと思うが、できれば一角に信夫山の主だった風景や神社などの写真を展示してもらいたい。そうすることで、写真美術館に来た人が、近くに信夫山があると知り、理解してもらえるのではないかと。信夫山へ行ってみたいという人も出てくるのではないかと。

(委員)

今の意見に賛成である。街と信夫山を結ぶという点で、街のなかに信夫山を知る場所、資料を展示する場所が欲しい。そこで信夫山についておおよそのことが分かって信夫山に行ってもらえると非常によいと思う。是非写真美術館にもそういった部屋を設けてほしい。また、駅の近くの中心部にも資料室や資料館があれば非常によいのではないかと。

各論を考えていくうえで、「ミュージアム」とすればそれを元にいろいろな問題を考えるひとつの土台になると思う。全体が「ミュージアム」となれば、すべてのものが資料になる。博物館資料と考えると、それをどうすればよいのかはおのずと出てくると思う。では、その中でどう進めるかということは、専門的な見地から考える専門委員会の中で考えていく必要があると思う。そういった考え方の元になるものと考え方をまとめていけたらよい。

(委員)

太子堂の駐車場から第一・第二展望台へ向かう道路は、歩く人の安全が全く考えられていない。汚染土搬出のためにいくら道路を広げても、果たして人のための歩道は考えてくれるのだろうか。基本的方

針にあまり強調されていないかと思われた。

資料3に示された主な遊歩道はあまり利用されていないのではないか。第一・第二展望台まで行く道は非常に景観も良く、小鳥の声も多い。そこを歩く人が安全に歩けるよう、是非考えてほしい。

旧参道は、歴史的な事情で現在のような状況になっているのかもしれないが、雨や雪が降ると滑りやすくなる。階段などで歩きやすいように対策ができると利用しやすくなると思う。六供集落の辺りは車も通るので、車も人も利用しやすい道を専門家の方に考えてほしい。

基本的方針に、歩く人のための道路作りも加えて欲しい。

(事務局)

言葉足らずな部分は否めないが、道路については全体を見据え、資料2の21ページ24行目に「歩行者の安全確保が必要」と位置付けた。具体的に、第一・第二展望台周辺と六供集落に登る部分、拡幅中の道路についても、歩行者に配慮したものにしてほしいと要望があったことを担当部署に伝える。

(委員)

資料4の「連携強化」について、国道13号線と県庁通りの間かと思うが、あまり楽しい商店街ではないと感じる。もう少し楽しみのある道路にしてほしい。

「連携重点エリア」も駒山の大鳥居の辺りになるかと思うが、現在工事をしていて、一方通行など車両の走行が規制され、日中混雑している。開発は楽しみでもあるが、住民が生活していく中で混雑しないような開発を希望する。

(事務局)

1点目の街なかとの連携強化については、何かしら信夫山へ向いやすく楽しめる道路を検討したい。

2点目の大鳥居の下のところについては、下水工事中でご迷惑をおかけしている。太平寺岡部線という道路について、国道4号線から13号線までを対象に整備を進めており、4号線から福島体育館のところまでは拡幅が終了している。今後、ハローワークの南側を抜けて13号線まで拡幅を計画しており、令和6年～7年には完了したいところである。その際、鳥居周辺やハローワーク周辺は道路が大きく変わる予定である。現時点ではお見せできないが、どのようにしたら信夫山の入り口が入りやすくなるか、行きやすくなるか、ご意見いただいた駐車場や安全面の考え方もあるので、車で行く場合はどうで歩行者はどう通るか等を検討する。先日行われた睨まいりでも、わらじを運ぶルートへの入口の部分若干変わるおそれがある。行政で十分検討し、市民の皆様と情報共有しながら行きやすいルートづくり・まちづくり強化を図っていきたい。

(委員)

10ページのイベントについて、表の「信夫山クリーンアップ作戦」は清掃活動に入るのではないかと。

(事務局)

民間と一緒にやるクリーンアップと市が主体でやるものなど何種類かあるので、このような表現になった。今後、修正を加えるかもしれない。

(委員)

最初の質問で、「あくまでマスタープランですね」という確認があったが、方針としては問題なく、こういう形でやっていこうということだと思う。

ただ、多くの委員が言われているように、実際に実施するにあたり各論に落とし込む段階でどうなるのかについての具体的なプランや時間的な見通し、担い手等については、まだまだこれから作り上げていく必要があると思う。

市として、この方針に基づき何をどこまでやっていくのかを、現状見通せているのかを知りたい。

第1回目の委員会でも確認したが、この委員会のミッションがこの方針をつくるということであれば、ミッションコンプリートかという気がする。

委員から出た「信夫山まるごとミュージアム」は、凄くよい発想だと思う。ひとつのプロジェクトのミッションとして考えたときに、「まるごとミュージアム」としていろいろな資源がそこで分かるというのは、福島の魅力にもなる。「ミュージアム」という言葉を通し、市民も福島に住んでよかったと思えるような場所にしてしまおうというものであれば、非常に素晴らしいと思う。

ただ、「信夫山まるごとミュージアム」にしましようとなっても、その結果どのような信夫山になっているのかがまだ書かれていない。市民が信夫山とどのように関わり、その結果市民の関心向上に繋がられるのか、イメージが見えない。そのビジョンが明確にならないと、それを達成するための戦略が決まらない。どのように「ミュージアム」にし、市民以外の人も含めてまず市民が信夫山に関わり、「信夫山ってやっぱりよい山だよ、これを後世に残していこうね」、となるような姿にするのか。それはどのくらいのスパンで、誰が何を担うのか、もっと煮詰めていかないといけない。

その中でもっと詳しく信夫山の現状を知る意味で、様々な専門委員会を立ち上げ、実際のプロジェクトにしたときに役立つ知見を得ないといけないというのはそのとおりだが、その前に「信夫山まるごとミュージアム」にするためのプロジェクトを必ずやると決めなければ、方針だけ決まって、ここにいる方々も10年後、20年後には忘れてしまうようなことになりかねない。その辺りについて、市が音頭をとるのか、市民に公表し推進するための民間を含めたプロジェクトチームをつくるのか、考えるべきである。

ツーリズムとは社会課題の解決の手段であり、ツーリズムの最も進んでいる国のひとつがニュージーランドである。そこでは「観光」というものを使い、例えば移民とマオリとのコンフリクトやジェンダーの問題も解決している。もちろん自然と経済も両立させる。例えば人を呼ぶと自然が破壊されるなど、何かコンフリクトが生まれたときに必ずトレードオフになるというのではなく、すべてを高い次元で両立させていくのが今のツーリズムの考え方である。

信夫山も、各論をもっと高い次元で達成しないといけない。「信夫山まるごとミュージアム」となったとき、福島市の課題や問題の解決の糸口が信夫山を通して見えたということになっていないといけないと思う。ただ、そのための仕組みづくりは非常に難しいと思う。方針を文言で終わらせないための仕組みづくりをやらないと、4回の委員会が出た皆様の貴重な意見が無駄になる。事務局を含めて意気込みを聞きたい。

(事務局)

信夫山の課題を取りまとめるうえで、本日ここにはお見せできていない資料も庁内では揉んでいる。庁内が「信夫山全体をミュージアム」と捉えたまちづくりをしていくという部分はオーソライズでき、取り組んでいくという気持ちが出てきたと思う。委員から指摘のあった課題は残っているが、庁内でフ

ードバックしながら信夫山のまちづくりに取り組んでいきたい。

(委員)

先ほど、『「ミュージアム」と捉え』という文言になっているが『「ミュージアム」とする』としてほしいと発言した。「ミュージアム」という考え方だけではなく、「信夫山はミュージアムだ」ということをきちんと謳い、「ミュージアム」とするための取り組みを、是非これからやってほしい。「ミュージアム」とするためにはただ放っておいてもならないので、本当に、おっしゃるとおりプロジェクトチームも専門的なことも、もっともっと必要である。

また、信夫山はまちづくりと密接に関係すると思う。福島市の場合は、核になるものがあまりない。城下町ではあるが、城下町の場合はお城が核になっているところが多いものの福島市の場合は残念ながらお城がない。とすると、福島市の核になるものはやはり信夫山である。そういう意味で、信夫山をもっともっと利用・活用していく必要があるし、そのための十分な内容のある山だとずっとずっと前から思っていた。部署が違うなどの事情はあるかもしれないが、部署関係なく『「ミュージアム」とする』ということでは是非取り組んでいただきたい。

(委員)

今回まとめた資料を、委員会メンバーだけではなく市民にどう広げていくかも大切なことだと思う。どのような意見・話題・議論があり、どのような方向性が出たかを、市民に知らせていく必要があると思う。

(委員長)

資料は間違いなくホームページにアップされ、広報されると期待している。

では、只今、委員からたくさん意見をいただいたので、委員会としては今回が最後だが個別のやり取りで反映できるものについては最終的な報告書に反映していただきたい。全員に必ず確認していただくよう、事務局にはなお願いしたい。

民放新聞社の論壇を2か月に1回書いており、2月16日に出たものに信夫山のことを書いた。本当はタイトルを「信夫山まるごとミュージアム」にしたかったが、ここの議論をそのまま載せるのもどうかと思い控えた。

「信夫山まるごとミュージアム」という思想があると、あとは私たちがビジョンを持てば、実現したときに福島市はどうなっているのか、私たちはどう関わっているのかと考えることができる。まずビジョンが明確になれば、次は何をどう解決すべきかの優先順位がつけられると思う。また、いろいろな委員会がそれぞれに相乗効果を発揮して、コンフリクトがあってもそのぶつかったもの同士の意見をさらに乗り越える大きな三角形を作り、これを第三案というが、その第三案で物事を解決していけるのではないかという、非常に挑戦的なプロジェクトチームができれば面白いと実際に思っている。

麓で学校を運営しているので、若い人たちの力を借りて、勝手にプロジェクトを立ち上げて頑張っていきたいと、ここで私が決意表明をさせていただきたい。「基本方針図(案)」(資料3)は、学生と一緒に見たら、おどろおどろしくて面白い。何かここに潜んでいるように感じる。

そして、汚染土の問題や土砂災害の問題もあるが、今、福島市或いは福島県に住んでいて、この問題と共に生きなければ私たちの将来はないと思っている。だから、危険とどう向き合いながら安心して安全な生活をつくっていくかということは、市民として考え続けなくてはいけない明確な課題であり、それ

を解決していくことが世界に向けて「ふくしまここにあり」とアピールできる非常に大きなチャームポイントになると思う。

さらに頑張って、グローバルに考えローカルに活動していける、グローバルな学生をつくっていききたいと、この会議を通して勉強させていただいた。

7 事務局より

4回という非常に限られた時間の中で皆様に貴重なご意見をいただき、感謝申し上げます。

信夫山に関しては皆様もご存じのとおり、今までも何度も役所やいろいろな方面で検討され、そのまま立ち消えになってきたという現実がある。我々としては、守るべきものは守るというひとつの方針があり、それを皆様に理解していただき、そのうえで活用できることを考えてきた。その活用の中で、また守るべきものの価値が見出されることもあるかもしれないし、そういうものをきっかけに、より信夫山を知ってもらおうという非常に前向きな話もあったと思う。こういったことを皆様にひとつのテーブルで議論いただいたことは、本当に貴重な財産になると思う。

今後は、これを基本的な方針として、皆様が議論した結果として市が発表していく。

皆様は、学校教育、イベント、自然に親しむなどいろいろな形で信夫山に関わりがあると思うが、守る立場、活かす立場それぞれの意見を出していただき議論し、整理したものとしてこれがある。もちろん一本の線ではないが、方向性を示したものであるので、官民間問わずご活用いただきたいというのが我々の思いである。

もちろん、この中では議論が尽くされていない専門的な見地からの調査や検討も必要だと思うので、そういったものは行政で積極的に段取りをして、皆様により知っていただきながら良い方向に向かうためのお手伝いをさせていただきたいと思っている。